

宮西高校同窓会報

発行 愛知県立 一宮西高等学校 同窓会

一層の発展を願って

同窓会長 山内 進



同窓会員の皆様方には、暑さに向かう折から、ますます御健康の事とお喜び申し上げます。今年も昨年に引き続き、同窓会報をお届けする事となりました。同窓会報も第二号となりますと、皆様方に御報告する事が段々増えてきて、スペースの調整に四苦八苦している状況であります。

（ここで参考までに、この会報の編集に当ってみえる当西高同窓職員の方々の御紹介させて頂きます。田中博先生(1)、山内清生先生(6)、今枝義光先生(9)、伊藤克也先生(11)、田中雅夫先生(11)、以上の方々です。色々な情報または近況報告等がありましたら、気軽に皆様とどしどしお便りを戴きたいと思っております。）

『二つの終焉』

校長 柘植 敬一郎



全日制の、先生方や在校生諸君には夙（つと）に注意を喚起したことで、本年元旦の毎日新聞一面の記事は、私には大層なショックでした。どんな記事だったか、ご存知でしょうか。要約すると、「愛知県教育委員会（六十四年度には、学校群制度改廃）を検討。六十二年度中には結論を」という記事でした。

ここで、例によって甚だ唐突かつ大袈裟なのですが、敗戦という途方もなく高

さて、皆様方は現在それぞれの職場内で、また家庭内等で御活躍の事と思えます。そしてその中でそれぞれの立場において様々なコミュニケーションを計っておられることと思います。さらにそこにもう一つ加えていただきたいのは、同じ西高の卒業生という仲間意識の上に立つてのコミュニケーションであります。その一つがこの同窓会報の重要な役割でもあり、そして御案内の通り八月十八日に開催されます総会に参加し仲間達と旧情を再び深めていただく事も大変有意義な事と考えております。そのような中で会員同志のコミュニケーションの輪を今後さらに広め、お互いの連帯意識をさらに強化し、また互いに切磋琢磨しあう事が、ひいては西高の発展に大いに役立つのではないかと考えております。今後とも皆様方の御指導御協力をお願い致します。

栄光の一つや二つ薄れたって・消えたと、という議論もあって、これまた、当然のこととして、しかし、とにかく、一つの終焉(しゅうえん)を迎えることにはなるのでしょうか。

開けば、制度改廃の理由の大きな一つは、「行きたい高校」へ、制度のゆえにのみ行けないことへの不満解消にある、とのこと。

ところで、わが西高が、六十四年以降もこの地の子女にとって、変わらず「行きたい高校」であり続けるためには、恐らく、想像を遙かに超える努力を強いられる、これからの数年でしょう。

そのための新たな胎動は、もう今から始めなければなりません。

母校にまなこを

稲沢東高校長 丹羽和己知



この四月、十年間お世話になりました西高を去りました。思えばこのあいだに三千五百名に余る卒業生を見送ったことになりました。時の流れの速さと、巣立った同窓生の数の多さに、改めて驚かされています。

同窓会も、創立二十周年が契機となつて、その組織も固りつつあり、会報第二号の発刊、誠に喜ばしく思います。

従来も、同窓会は、同期会といった横の繋がりでは開かれていたようですが、が先輩・後輩といった縦に繋がる結びつきは弱いようです。

OB・OGの皆様、どんなお力を藉(か)していただけるでしょうか。

もう一つの終焉(しゅうえん)、六十二年三月一日には、事実上幕を閉じる、わが西高・昼間定時制について触れる紙数が尽きました。感慨なし、と、しませぬ。

現在の高校は、地域社会と深い拘わりを持っていて、その協力と支援によって培われて行きます。同窓生の皆様、注釈の年齢を迎えられたとき、誇れる母校であるように、折にふれ、学校を訪れ、暖かい目で見守って頂きたいと思っております。ご発展をお祈りしています。

総会のお知らせ

同窓会総会を左記の要領で実施いたします。会員各位の御出席をお願いします。

- 日時 八月十八日(日曜日)午後一時より 終了後立食パーティ(会費千円)を準備しております。
- 場所 一宮スポーツ文化センター(真清田神社西)

※ご出席の方のみ、七月末日までに同封の葉書でその旨をお知らせ下さい。

会員からの近況報告

昨年度から各卒業年度から一名ずつ常任幹事の選定をすすめてきました...

常任幹事の皆さん (決定分のみ)

Table with 4 columns: 卒業回, 氏名, 現住所, 電話. Lists 19 members with their details.

(係より)

三回生 小川 健一

(一宮市役所勤務)

一宮西高校を巣立つてからはや十六年... 卒業後はじめの合同クラス会をもちました。

六回生 浅野 良二

(浅野義毛織勤務)

一宮・尾張地区の伝統ある織維産業の婦人服地企画製造販売が、私共の仕事です。

家族は妻の両親、妻、長男、長女、私の六人家族で、毎日わいわいがやがやと「やかましい」といった言葉がびったりする日々で、いたずら盛りの子供たちを大声でどなりつたりしています。

九回生 松平 康彦

(共和食品勤務)

卒業してもう十年、早いものです。大卒を卒業し、社会人となって六年、結婚して三年目に入り、妻と長男と家族三人、一応一家の主としての日々を送っております。

懐かしいあの顔の顔。しかしなんといつてもほとんどが十六年ぶりに合わせる顔で、なかには「アレ、こんな人、同級生におったかなあ」となんてこともありました。

趣味として、日本古来の伝統音楽、雅楽を習い始めて、六年になります。雅楽といってもわからない方が多いと思えます。

去年の一月より尾西青年会議所に入会して、今は広報委員会のセクレタリーを務めております。毎月第三水曜日に、尾西文化会館で例会があり、三分間スピーチ等の自己訓練、講師を招いての自己啓発、各種事業の打合せを行なっております。

間をいかに有効に使うか、あるいは、ゆとりを持ちもつと趣味、スポーツをし、有意義な日々を送りたいと思うのですがこんなことは平穩な日々の中のぜいたくな考え方かもしれませんね。今思えば、その時はいろいろ悩み、苦しんで来たのですが、自分でのんびりしていた学生時代をなつかしく思い、まさに青春だったと思うのです。

行動の二十代をモットウとし、みのある三十代に入りたいですね。またみんなに会えるのを楽しみにしています。

十一回生 金子 秀夫
(尾西高校勤務)

今半もまた、しとしとと雨の続く紫陽花の季節がやってきました。現在、私の勤務する尾西高校では、毎年この時期に合唱コンクールが催されます。練習期間を一週間とし、その中で、課題曲と自由曲の二曲を、どこまでまとめあげていくかを競いあうコンクールです。優勝を目ざして頑張って練習している生徒を見守る中で、昨今の若者の生き方についていろいろと考えさせられたことを、少しばかり述べさせてもらいたいと思います。

まず、自由曲を何にするか、これが最初の一大事なのです。しかし、なかなかこれが決まらず、クラスの中心的なメンバー達が職員室にやって来て、「先生、何歌ったらいいの。まあ、先生が決めてくれやあええがね」と言い出す始末。そこで私に、「何言っとるんや。お前らが歌う歌やろ、そんなもんが自分達で決めてどうするんや」と言われ、音楽的素養のない担任に見切りをつけたのか、

生徒たちは、自分達で本気に曲選びをし始め、最終的には自分達で決めた曲を歌うことになったのです。

こうした生徒の動きを見ると、全く依頼心が強く、自分自身の問題を、本当に自分の問題と自覚できない昨今の青少年の特質が、くつきりと浮かび上がります。そういった若者をどうやって導いていったらいいのか、今後色々色々とその方法を模索していかなければならないな、そう考えている今日このごろです。

十三回生 伊藤 信久
(一宮興道高校勤務)

若輩者の私が、同窓会の常任幹事という大役を仰せつかり、果たして責任を全うすることができたか、大いに不安です。しかし、ご指名をいただいたからには、少しでも母校の為に役立つよう努力する所存ですので、皆様のご協力を宜しくお願い致します。

さて、私は現在、一宮西高から南東へ2kmほど離れた所にある、県立一宮興道高校の教員をしております。私の勤務校は今年で開校三年目を迎える新設校で、勉強の点では、一宮西高をはじめとする学校群に追いつけ、追い越せという毎日です。つまり、公私の両面においては、私はいささか微妙な立場にいるわけです。まして、六十四年度には学校群の制度が廃止になる予定とか。私自身ではどうすることもできませんが、公の立場では自分の勤務校の向上をめざして頑張るもの、心の中ではやはり母校の発展を願わずにはいられません。

また、自分の現在の立場ゆえからなの

かもしれませんが、母校を、そして母校の生徒たちを苦々しく思うことが時々あります。具体的な例をあげることができませんが、自分たちは何か選ばれた者だと思えばいいような、非常に傲慢な態度をしばしば目にします。「自由にのびのび」というのが一宮西高の良き伝統かもしれませんが、物事の是非の前においては何人も変わるものではないはずですが、先生方の真摯な、しかし愛情のあるご指導を後輩たちにお願ひしたいと思います。

十六回生 市原 博司
(日本福祉大学在学)

大学生活も残り一年足らずとなり、あらためて自分自身の大学生活はどの様なものだったのかと、振り返る機会も多くなってきました。また、大学四年間の研究の集大成である「卒業論文」と、一生を決定するであろうと思われる「就職」という二つの大きな課題を目前にして逃避と挑戦という矛盾した生活を送っている今日この頃です。

この西高を卒業しようとする頃から、人と接する仕事がしたいと思っていました。たから、「社会福祉」という学問と、西高での二週間の「教育実習」という経験は、大変勉強になったと思います。時に教育実習では、「教師」という職業の厳しき、さらには素晴らしいさややり甲斐が身をもって体験できたのではないかと、思います。当然わずか二週間という短い期間の中で、自らが経験した「教師」という仕事の内容は、ほんの一部分にすぎません。しかしその中でもこれからの人生に大きな影響を与える「何か」を得たいと思ひます。

昨年から今年にかけて、現在ボランティアに行っている作業所の仲間たち等数多くの人々との出会い、また、スキーバス事故や病気で多くの友人を失いました。この教育実習でも、先生方や同じ実習生仲間、生徒たちと出会いました。今年の夏も、教育関係の卒業論文や、職業選択という大きな関門の中で、多くの人々との出会いと別れがあることと思います。それらのひとつひとつを大切に、さらに一回りも二回りも大きな人間になりたいと願っています。

これからの生涯に重大な意味を持つと思われ今年の夏、バテることなくがんばっていきたいと思います。

十九回生 河邊 善成
(同朋大学在学)

西高を卒業して三ヶ月半、ついこの間まで学生服を着て西高に通っていたのかと思うと、何やら妙な感じがします。

今私は、入学当時のあわただしい日々も過ぎて、軌道に乗った毎日を過ごしています。

私の大学は、宗教系の大学で、主に、親鸞聖人の教えを学びます。こういった宗教関係の授業は、興味をそそるような部分は少ない。やはり我々のような若い世代の者にとっては、家が寺だからといった理由の他には、自分から進んで仏教を学びたいと思つて入学する者は少ないようです。

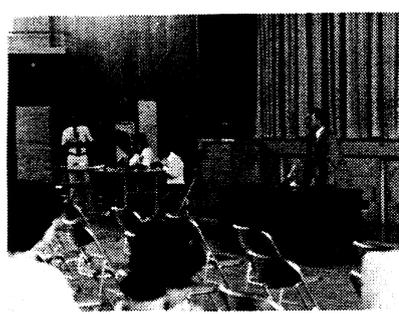
私はこの宗教の課程の他に、教職課程をとっています。以前から「教師になりたい」というのが私の夢だったので迷わず

履修しました。しかし、みごと教員になれるのは、極々わずかで、一、二年次の間に、一定の基準に成績が達していない者は、三年次からは履修不可能となり、教員試験すら受けられない場合も多々あるそうです。こういった状況で、私も一生懸命勉強しなくてはならないと思ひます。

まだ大学に入ったばかりで、先は長いですが、大学生という立場におほれないように頑張つていきたいと思っています。

昭和59年度総会報告

真夏の太陽がまぶしい八月十九日、会員および現・旧の母校職員百余名を集め、母校体育館で総会が開催されました。会長・学校長のあいさつの後議事に移り、昭和五十八年度事業報告・会計報告ならびに昭和五十九年度事業計画案・予算案が、それぞれ満場一致で承認されました。そして記念写真撮影後は懇親会(立食パーティー)。旧友ならびに師弟の間に話はずみ、和気あいあいとした雰囲気の中で、幕を閉じました。



職員の変動

◎転任 (全日制)

丹羽和已知(稻沢東高校長)
佐伯 龍雄(美和高校)
瀬見井良子(美和高校)
宇佐美武嗣(一宮東高校)
鹿野 恵策(西春高校)
石井 平示(丹羽高校)
矢内乃武夫(平和高校)
石田 烈史(大山高校)

(定時制)

竹内 功男(名南工業高校)
森 雅道(一宮興道高校)
西川 稔(稲沢東高校)
小崎 明子(稲沢高校)
田中三枝子(佐屋高校)
加藤 一女(一宮興道高校)

◎退職 (全日制)

保健体育 野沢 ふさ

◎昇任

教頭 伊藤 幸雄(一宮西高校)

◎兼任 (全日制)

国語 林 典生(犬山高校)
三宅 和美(名古屋大学卒)
重岡 正樹(起高校)
見崎 美好(丹羽高校)
小川 康男(尾西高校)
安田 雅彦(神山小学校)
遊垣 英純(東海商業高校)
古川 友子(南山大学卒)
英語 戸田 和江(祖父江高校)
保健体育

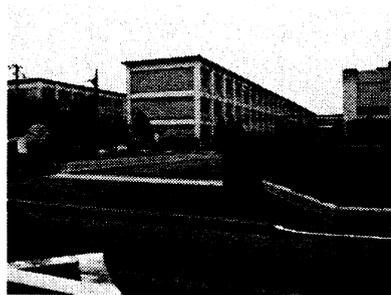
3回生同窓会開く



第三回生は、今年一月六日真清田神社
参集殿において、三年時の担任の先生三名(羽根田先生は所用で御欠席)をお招きして合同クラス会をもちました。
三回生四クラスは共に卒業後まもなくそれぞれクラス会をもったことはありますが、二十余年間開かれておらず、再開を求める声がかかれるようになりまして、そこで傍島同窓会副会長を中心に発

ご寄付

会報第一号発刊以後、左記の方々から
本同窓会に多額のご寄付をいただきました。厚くお礼を申し上げます。
ここに披露させていただきます。
★昭和五十九年十月 六回生酒井敏光氏 より十万円
★昭和 六十年五月 三回生宇佐美武嗣氏より学校・同窓会に十万円



20周年記念事業として校門の整備が行なわれ、今年2月に完成しました。

起人が集まり、この日を迎えました。
会では先生方の近況報告から始まり、学年主任だった菊地先生(現惟信高)の駄洒落に満ち満ちた話、永田先生(現尾西高校)の手をチョット前へ出したポーズでのエネルギーな話し方、女性キラー森藤先生(現一宮商高)の話など、私たち三回生が高校生であった頃と全く同じであり、あれから十数年たっているのですが、その間が完全にどこかへ吹き飛んでしまい、現在も高校生であるような気持ちになってしまいました。時間がたつにつれ、話もはずみ、会場の方々が「〇〇も変わらんなあ」という言葉がよくきかれ、見かけは変わっても人の中身は高校時代と変わっていないことに、これまた驚かされ、予定の時刻を大幅に越え、盛会のうちに幕を閉じました。
当日は全会員の約四分の一程の結集であり、その中からいろいろな要望が出されましたので、今後会のもち方を考えながら、来年の再会をめざし発起人一同頑張ることにしました。
(三回生・宇佐美武嗣)

部活動(大会成績・合宿日程)

本年度の七月十日現在の大会成績及び合宿日程です。微力ながらも精一杯頑張っていますので御指導の程よろしくお願ひします。

- 【高校総体】県大会出場の部
ラグビー部 尾張支部 優勝
ハンドボール部 尾張支部四位
卓球部(ダブルスの部)
陸上部(百M・四百Mの部)
バドミントン(ダブルスの部)
バドミントン(シングルの部)
その他の大会
バレーボール(国体予選)
ソフトボール(国体予選)
尾張支部 二位 県大会出場
尾張支部 二位 県大会出場

Table with columns for dates and activities, including '合宿日程' (Camping Schedule) with dates like 7月21日, 7月25日, etc.

暑さのきびしい折り、会員の皆さんにはお元氣にお過ごしのことと思います。「一宮西高校同窓会報」第二号をお届けいたします。
急な依頼にもかかわらず早く原稿を書いていただいた先生方、会員の皆さん、まことにありがとうございます。
それでは、総会にておめにかかりましょう。

卒業生の進路状況

Table showing graduation status by year (S57 to S60) for various institutions like National University, Private University, etc.

Table showing career paths of graduates by year (S57 to S60) for categories like '入学時の生徒数', '卒業生数', etc.

編集後記